20231029 レムナント教会 1 部

イエス様の死(十字架)の前で(マルコ 14:1-11)

その人が本当に祝福の人なのか、そうではないかということは、イエス様の死を前にしてどのように反応を示すのかを見れば分かるようになります。今日の聖書を見ますと、律法学者たち、パリサイ人たちはイエス様を殺そうとしました。つまり、彼らはイエス様が死んでしまうと消えてなくなり、今まで自分たちが主張してきたもの、また支えにしていたものが守られると思っていたわけです。そのようにイエス様の死を捉える人たちがいました。それから、弟子の一人イスカリオテ・ユダという人間は、イエス様の死、イエス様が十字架で死なれるとということは、もう失敗の他に何もないと思ったので失望しがっかりしていました。イエス様の死を前にしてがっかりし失望する人間もいます。なので、ここにずっとついて行くわけにはいかないし、イエス様を裏切って最後の汁まで絞ろうという思いでパリサイ人たちのところに行き、イエス様を売るという提案をしました。つまり、イエス様の死、イエス様の十字架は失敗そのものなんだと思う人間もいるわけです。そういう人たちは祝福の人とは到底言えないのではないでしょうか。しかし、その中である女性が登場します。その女性は彼らとは全く異なる反応を見せていました。なぜその女性はそのような反応ができたのでしょうか。それを通して私たちは神様からこのようなメッセージをいただきます。

1.「イエス様の死(十字架)は私の救い」と分かる人は、止められない感謝で溢れる。
第一に、イエス様の死、イエス様の十字架は私の救いなんだと分かる人は、誰も止めることができない感謝に溢れることになります。

イエス様が死ぬと自分に都合の良い結果が残ると思う人は、このような祝福には預かることができません。また、イエス様が死なれた「あれは何？失敗の他に何もないのではないか」と思う人は祝福には入ることができません。しかし、この女性はイエス様の死、イエス様の十字架は私の救いと分かったわけです。だから、他の人には理解できないそのような行動に打って出ることになりました。感謝であふれていたから。なので、このような感謝のない人から見たときには全く理解できません。

1) 私は希望のない罪人-汚れた人生、それよりひどい根本(エペソ 2:1-3)
イエス様の死を前にして、このような感謝の反応を示すことができる人が、イエス様の死、イエス様の十字架を見て、私は希望のない罪人なんだということを改めて悟るようになります。そういう人が感謝するようになります。イエス様が、罪のないメシヤが十字架で私のために死ぬしかない、それほど私は根っこから腐っている希望のない罪人なんだと悟った人が、イエス様の死を正しく理解することができます。たぶん彼女はイエス様の死、その十字架を前にして、自分の今までの過去を振り返り、汚れた人生を見つめるようになったでしょう。しかし、もっと大切なのは、どれほど汚れて、どれほど辛いことがあり、どれほど大きな犯罪、罪を犯したとしても、それとは比べることができないほどひどい自分の根本を見つけることができたわけです。自分の過去にずっと囚われている信者は、いまだにイエス様の死の意味、また自分がどれほどダメな人間なのかを素直に認めていないからです。どんな失敗をやらかしたのでしょうか。どのように辛い経験をしたのでしょうか。なぜそれがいまだに私たちの心を捕らえているのでしょうか。それよりよりひどい、どうにもならない根本を見たことがないのか、あるいは聞いても認めたくないからではないでしょうか。聖書には私たちの根本をこのように記しています。エペソ 2：1-3「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました」。そんなものだったんです。誰も分かっていません。しかし、イエス様の十字架の前に立ったときにそれが見えてくるわけで。「私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした」。そういう者なのです。それが私たちの根本なのです。たとえ人を殺める罪を犯したとしても、それよりもっとひどいのが根本なのです。大学に行っても、また政治家でも、どんなに偉い人間でも教えることのできない聖書だけに示されている人間の真相なのです。それに気づくようになります。祝福された人は、イエス様の十字架の前でイエス様が死なれること、その前に立ってそのことに気づくようになります。

2）知らずにもがいていた過去-傷だらけ、疲れて重荷を負い、ボロボロ
そして、今までそういうことも全く知らないまま自分の人生を幸せにしたいということでもがいていた自分の過去を素直に認めることになります。幸せになろうと頑張ることは悪いことではありません。しかし、人の罪がどういうものであれ、根本が何か分かって全く希望のない自分が分かっていれば、それはただのうめきに過ぎないものなのです。無駄なことになります。しかし知らなかったので、しょうがなくもがいて、もがいて、もがいていたのではないでしょうか。「そのことを素直に認めます。私は答えのないままもがいて、もがいていました。だから今傷だらけであり、疲れて重荷を負っているし、人生ボロボロなんです」ということを素直に認めるしかありません。そこでイエス様の十字架、イエス様の死からこのようにメッセージが語られます。

3）神様の無条件の愛-ヨハネ 3:16、ローマ 5:8-11、ガラテヤ 2:20、ヨハネ 19:30
神様の無条件の愛がそのような希望のない私を愛して、御子イエス・キリスト、罪のないキリストを十字架に引き渡された、その神の無条件の愛に目が開かれるようになります。世の中にあるどんなにすごい価値あるものとも比べることができません。もし比べようとすれば、神様の無条件の愛の前でそれはすべてちりあくたというしかありません。その無条件の神の愛に目覚めることになります。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」ヨハネ 3：16。それが神様の愛です。ローマ 5:8-11、このように宣べられています。「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。そればかりでなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです」。これが神様の無条件の愛です。宇宙のどこに行ってこのような愛に遭遇することができるでしょうか。だから、私たちはこのように告白せざるを得ません。ガラテヤ 2：20。私はイエス様の十字架とともに一緒につけられて死んだ。今、私が生きるのは、私の内側にキリストが生きていて、そのキリストを信じる信仰によって生きるのです。希望のない滅びるしかない私は、イエス様の死とともに、十字架とともに死んでしまった。神の無条件の愛によって私は今キリストのいのちを持っているものなんだ。そのイエス・キリストが十字架の上で宣言されます。すべてを完了したと。私のすべての問題、自分でどうにもならないひどい根本から今まで犯してきた罪や私の弱さや、これからも限界ある未熟な人生を送るしかないけれども、それが一切問題にならないようにすべてを完了したと宣言していらっしゃいます。数字では計算できません。この世に類を見ない、法則が見当たらない神様の無条件の愛から生まれるものなのです。安心してください。自分がキリストの十字架の他には希望のない罪人なんだということを素直に心から認めていらっしゃるのでしょうか。そういう人が祝福された人なのです。何回も繰り返して申し上げますが、人間の罪の本性の一番の性質、特徴は、自分は救いが必要な罪人だということを死んでも認めたくないのです。それを罪と言います。イエス様の死、十字架は私の救いと分かる人は、誰にも止められない感謝で溢れるようになります。

2.「イエス様の死(十字架)は真のいのち」と分かると、計算を超えた献身に現れる。
だから当然のことです。イエス様の死、イエス様の十字架はまことのいのちなんだと分かった人は、計算を超えた献身にそれが現れることになります。私たちは今まですべてが計算で動かされていました。別に計算そのものが悪いわけではありません。しかし、キリストによって救われ、神の無条件の愛に預かった信者の場合は、そこら中の計算に囚われて生きる者ではなく、それを超越してそれを超える人生を歩く者ということを心に覚えましょう。今日の聖書に登場している女性がそのような人でした。女性が今まで大事に溜めて溜めて溜めていた香油を壺に入れています。イスラエルの人たちは、特に女性の場合は、結婚に備えてそれを溜めています。だから自分の命のように大切にしているものなのです。自分自身のようなものなのです。それを持ってイエス様の前でその壺を割って、その香油をイエス様に全部注ぎました。物理的に計算的に見ると、そのように注いでしまうと香りは溢れるかもしれませんが、それでおしまいではないでしょうか。

1）弟子たちの反応
だから、それを見ていた弟子たちも「何をしてるのか。それを大事にして売れば 300 デナリが出て、多くの貧しい人を施すことができるはずなのに、今なんということをしたのか」と怒りを露わにしたのです。その通りです。それが計算なのです。日曜日に礼拝するより家で勉強すれば、勉強する時間が増えるでしょう。それは当たり前の計算です。しかし、その計算だけでは人生の成功者になるには無理なのです。この世界、人生には目に見えないものがあり、目に見えない世界が動いているし、自分の計算通りにすべていくわけではありません。計算を無視するつもりではありませんけれども、計算がすべてではありません。彼らは知らないでいました。

2）計算できないからではない
その女性はそのような計算ができないから、そういう行動に出たわけではありません。献身というのは、知らない人が見たときには計算ができない人間のように思われます。「努力すべきであって、祈って何がどうなるの」とよく言われます。「祈っているその時間に一歩でも動いた方が得するのではないか」。それが計算なのです。彼らは祈りの力、目に見えない霊的な世界などは全く知らないので、その計算に留まって計算に囚われるようになるしかありません。しかし、彼女はそのような計算ができないからそういう献身の行為に出たわけではありません。イエス・キリストを信じることが救いなのです。キリストの他には救いはありません。この福音を守るために、場合によっては命が奪われるときもあります。「なんで命が奪われるのに。いや、私は信じませんよ」として助かればいいのに。それが計算なのです。彼らは命より大切ないのちの祝福が何かが分かっていないので彼らのレベルでその計算に縛られ囚われてそのようになるしかないのです。イエス様に従っているにもかかわらず弟子たちは今そういうレベルなのです。もちろん、そこにはイスカリオテ・ユダ もいました。ユダはいつも献金でいろいろな計算をしていたので、すぐにそういう計算が働いたでしょう。だから弟子たちの反応は非常に計算的でした。彼女は計算もできない無知な人間のように、デタラメな人間のように、ドンキホーテのように映ったかもしれません。しかし、彼女は計算ができなかったわけではありません。礼拝を捧げている信者の皆さん、本当に吟味して考えないといけません。うっかりするとカルト宗教などで献金しなさいと言われるようなイメージで献金に対して躊躇したりする場合がありますが、もしそういうイメージだったらやらないほうがいいです。神様はそういうことを望んでおられません。神様は貧乏ではありません。献身というのはそういうものではありません。普通の人が知らない計算を超えた感謝の表れというものなのです。つまり、彼女は救いの感謝に溢れて、イエス様の死が私のいのちをもたらすいのちそのものなんだと分かったのです。いのちはこの肉の命ではありません。漢字の命ではなくて、ひらがなのいのちです。

3）最も大事ないのちの価値に目覚めて優先順位が変わる
最も大事ないのちの価値に目覚めたので優先順位が変わりました。それを献身と言います。つまり献身というのは、いのちの価値が分かったので、その感謝と感激に溢れて献身できることを光栄に思って行うもの、それを献身と言います。皆さんが毎週、献金を捧げる額が少なくてもそういう思いで、そういうつもりで祈りを込めて捧げなければいけません。それは 1000 円であれ、100 円であれ、1 万円であれ、最も大事な何ものにも代え難いいのちの価値に目覚めた結果、優先順位が変わったわけです。貧しい人に施すこと、それは当然、常識的にやらないといけないものなのです。それを否定するつもりはありません。しかし、彼らはそれしか分かっていません。貧しい人に施したとしても、その人にいのちが与えられるわけではありません。人間に必要な救いのいのちは、キリスト、罪のない神の御子が十字架で血を流すこと以外に方法はありません。

4）計算(条件付き)ある献身-宗教的、ごりやく、つぐない、洗脳など
弟子たちから見られるように、このことに目覚めていない場合は、信者でも献身という言葉を使っていても全部が計算のある献身なのです。別の言葉で申し上げると、条件付きの献身なのです。このようにすればこうなるだろうという計算で行う献身を宗教と言います。教会で福音のために主のために宣教のために献身をするということは、宗教的な行為ではありません。そのようなことをやればこういう報いがあるだろうということではありません。それは全部、計算なのです。あるいはごりやくを求めて献身する場合もあります。とんでもありません。キリスト教会にはごりやくという言葉は存在しません。あるいは自分の失敗や自分の

過ち等々に対してつぐないの思いで献身する場合もあります。それも聖書が教えている献身とは違います。イエス・キリストがつぐなわれたので、私たちは感謝に溢れて光栄に思って捧げるだけです。ときには先ほど申し上げましたように、カルト集団みたいなところで洗脳されて献身をする場合もあります。献身は洗脳によって行われるものでもありません。来年から今まで私たちの教会ではそういうことは一切ありませんでしたが、三つの庭はたましいの救いのために必要なものと確信したので、それを備えるための礼拝堂を準備しましょうと祈っています。そのときには今申し上げましたこのような思いでの献身が求められるし、それは祝福なのです。もし一点たりともそのような思いがなくて負担に思ったり、いやいやな思いがある人は絶対にやめてください。しないでください。これが本当にいのちのために価値あるものだという確信を持って、そのために喜んで捧げるように祈ってください。それで神様がどういう風になさるのかを見て、その答えによって献身に移るようになればいいのではないでしょう。皆さん、今までこの教会にいて見てお分かりのように、ここで献金の話はしたことがありません。なので充分理解できていると思いますが、今日ちょうどそのような献身の場面が出ていたので。ぜひぜひ皆さんにすべてが祝福になるように。それ自体ももう祝福なのです。

5）まことの献身は永遠の作品に
そして、9節を見ますとイエス様がこのようにおっしゃいます。「まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこででも、福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう」。彼女はそういうことを狙ってやったわけではありません。でも本当の意味での献身、今日申し上げましたいのちの価値に魅了されて感謝と感激によって光栄に思って喜んで行った献身であれば、それが献金に現れる場合も奉仕として現れる場合もさまざまな形がありますが、それが人が見たときには小さく見える場合も大きく見える場合もありますが関係なく、まことの献身は永遠の作品として残るものなのです。自負を持って喜んで残りの生涯、献身の道を歩いていこうではありませんか。

結論を申し上げましょう。なので、いかなる理由でも妨げることのない救いの感謝、感激を回復しましょう。どうすればいいでしょうか。福音のメッセージを握って黙想してください。深く深く黙想してください。今日のメッセージだけでも皆さんが本当に心から黙想していけば感謝が回復できるようになるでしょう。救いをどのように思っていらっしゃるのでしょうか。今まで自分は救われたということをどういうふうに理解していたんだろうということを問いかけつつ、聖霊様がみことばをもって皆さんの心の内で働いて、救いがどれほど感謝すべきもので、感謝に溢れるようになる祝福なのかを示されるようになるでしょう。それとキリストを受け入れたことによって、自分の過去がどうであれ、今現在、都合がどうであれ全く関係なく、いのちを持っています。このいのちは何ものにも比べることができません。前にも申し上げましたように、皆さんはなぜ幸せですか。物事がうまくいくから？子どもがよく成長するからでしょうか。そうでなければ不幸なのでしょうか。クリスチャンはいのちを持っているから幸せなのです。だから死の影の谷を歩いてもいのちには別条がないので幸せなのです。そのときに悪魔サタンが跪くようになります。何かあるたびにふらふらふらふらすると、悪魔は喜んでここはディズニーランドなんだよというようになってしまうのです。いじめられても迫害されても誤解されても、それがいのちを奪うことはできないし、いのちに変わりはなく、私の幸せの根拠はいのちなのでずっと幸せなのです。それを揺れることなく保っていくことを祈りと言います。イエス・キリストが幸せなのです。金持ちになるから幸せではなくて。良い会社に就職したから、大学に進学したから幸せではなくて。私が好きな誰かが私を見てくれたから幸せではなくて。見てくれなくてもキリストがずっと見ていらっしゃるから、私はそれで幸せです。それで幸せにならないとこの世の中を勝利者として歩くことは無理です。1秒1秒変わりつつあるその度にふらふら揺れるしかありません。クリスチャンはこの世の手に負えられないものと言われるものなのです。この世の宇宙のどのような勢力、どのような力でも、私にあるキリストのいのちを奪うことができるものは存在しません。だから私は大丈夫なのです。だから私は幸せなのです。このいのちの絶対価値、祝福に目覚めて、そこから生まれるまことの献身を心から決心して、そして決心だけではなくて、その自分の献身が永遠の作品となるということを確信し楽しみつつ、証人の道を歩いて行きましょう。先週も申し上げましたように、この地上にいる間のメインテーマは証人です。たましいが救われることなのです。そのために皆さんの内側に神の国が臨まれ、皆さんの学業、産業、家庭、さまざまなところに唯一性の神の答えが必ず現れることになります。信じてこれから金土日時代に備えて、その答えの祝福に皆が預かる教会になることを祈り、また祝福します。

（祈り）
恵み深い父なる神様。ありがとうございます。希望のない罪人の私のために、罪のないキリストが十字架で死なれました。その十字架こそ私の救いであり、私のいのちであるということを告白して、そこから生まれる感謝、感激をもって残りの生涯を歩いていけるようにひとりひとりを祝福してください。そこから生まれる喜びの献身によって人のたましいが救われる証人としての作品を作ることができるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン